

電波を用いた観測が切り拓く 地球および惑星大気科学



2015年6月1日(月) 於 奈良女子大学

本研究集会では、電波科学の手法並びにその大気観測プロダクトに強い関心を持つ国内の大気研究者が集うと共に、欧州宇宙機関(ESA)の惑星探査における電波科学の研究者、Silvia Tellmann博士を招聘し、地球及び惑星大気における諸問題と、それを解決する術の一つとしての電波科学の現状や将来の方向性などについて、専門性の高い深い議論を行なうことを目的とする。本研究集会を通して、国内外の研究者や若手研究者の交流と強化を図りたい。

新緑の美しい季節に、歴史と文化が薫る古都・奈良へぜひお越しください。

プログラム(1st circular)

地球大気圏・電離圏

津田敏隆(京大生生存圏研究所)

- Application of GPS RO for studies of atmospheric waves

小司禎教(気象研究所)

- GPSデータ同化による数時間先の予測改善
- GPSから得られる水蒸気情報を数分先の豪雨の実況監視に利用する

齊藤昭則(京都大学)

- 地上GNSS受信機網による電離圏メソスケール構造の観測
(Observation of the ionospheric mesoscale structures by ground-based GNSS networks)

惑星大気圏・電離圏

Silvia Tellmann(ドイツ・ケルン大学)

- Radio Sounding of planetary atmospheres

黒田剛史(東北大学)

- 木星成層圏大気力学の概要(Overview of atmospheric dynamics in Jupiter's stratosphere)
- GCMにより示唆される火星大気における重力波の重要性
(The importance of gravity waves in Martian atmosphere indicated by the GCM study)

今村剛(JAXA宇宙科学研究所)

- 日本における電波掩蔽観測のこれまでと「あかつき」への期待(Radio occultation observations in Japanese planetary missions and expectations for Akatsuki)

安藤紘基(JAXA宇宙科学研究所)

- Venus Express 電波掩蔽観測による金星下層大気構造の研究

宮本麻由(東京大学・JAXA宇宙科学研究所)

- 電波ホログラフィ法による金星大気の大気電波掩蔽データの解析(Radio holographic analysis of Venus' radio occultation data)

野口克行(奈良女子大学)

- 電波掩蔽観測による火星大気主成分CO₂の凝結に関する研究

問い合わせ先

担当: 野口克行(奈良女子大学理学部)

詳細はWebサイト(<http://www.e.ics.nara-wu.ac.jp/lab/epas-lab/rss2015/>)をご覧くださいか、またはシンポジウム事務局(rs_symposium@ics.nara-wu.ac.jp)までお願い致します。